

■ グループ紹介

日 立 金 属 (株)

1. 当社の沿革

当社は、昭和31年4月に(株)日立製作所の鉄鋼部門が分離独立し、新会社として発足した。

発足当時の主要製品は、いずれも国内第1位のシェアを占める製品であり、今日でもその地位を保持している。

その後の30年間を振り返ってみると、当社は、いくたびもの好不況を経る中で、輸出の拡大、海外現地法人の設立、新工場、新研究所の設立など業容の拡大を絶え間なく続けてきた。

特に昭和30年代の経済の高度成長期は、住宅ブームの波に乗って管継手部門が伸長し、昭和40年代に入るや、モータリゼーションによって、自動車用マレブル鋳物および軽合金鋳物等が大きく伸びた。

その後、昭和50年代から今日まで、世の中はエレクトロニクス時代を迎えているが、この中にあって、当社は、ICリードフレーム材等の電子金属、マグネット、磁気ヘッドチップ、更に複写機関連部品等がエレクトロニクス関連部品として売上高を大きく伸長させ、昭和61年度では売上高の24%を占めるに至っている。当社では、この比率を昭和64年度には30%に、そして近い将来50%に伸ばすことを目標にしている。

2. 会社の現況

- 資本金 171億円
- 従業員 8,600名
- 売上高 2,520億円 (昭和61年度)
- 支店 5 (関西、九州、中部、中国、東海)
- 営業所 13 (札幌、北関東、信州、北陸など)
- 海外拠点 28 (米国、西独、シンガポール、中国など)
- 工場 7 (安来、九州、真岡、桑名、若松、熊谷、電子部品)
- 研究所 5 (磁性材料研究所、設備開発研究所、冶金研究所、鋳物開発センター、配管機器開発センター)

3. 当社の主要製品

- YSS高級特殊鋼 (高速度鋼、超耐熱合金など)
- 磁性材料、電子材料 (マグネット、単結晶など)
- エレクトロニクス関連部品 (磁気ヘッド部品など)
- ㊦印管継手、ダイアフラム式タンク
- ㊦印バルブ (マレブルバルブ、自動弁など)
- ロール (鋳鉄ロール、超硬ロールなど)
- 鋳鍛鋼品、射出成形用部品、鉄骨接合部品
- HNM鋳物、マレブル鋳物
- アルミダイカスト、アルミニウム鋳物、アルミホイール、フリーアクセスフロア
- チェン (ローラチェンなど)
- 機械装置 (水処理設備、焼却設備など)

4. 当社の新素材

当社は、昭和60年度からRD-5 (研究開発5か年計画)を推進しており、新素材、新技術の開発に特に注力している。例えば ①アイソトロピイ工具鋼 ②LT、LN等の単結晶 ③希土類磁石 ④粉末ハイス ⑤アモルファス金属 ⑥形状記憶合金 ⑦ニューセラミックス等があげられる。現在製造しているニューセラミックスは次の表の通りである。

区分	製造品目	用途
エレクトロセラミックス	圧電セラミックス	超音波探触子
	マニピュレータリング用セラミックターゲット	ターゲット材
	薄膜磁気ヘッド用セラミック基板	磁気ヘッド用基板
酸化物単結晶	LiNbO ₃ 、LiTaO ₃ 単結晶	表面弾性波素子の基板
	GGG単結晶	磁気バブルメモリ用基板
耐熱高強度セラミックス	自動車用セラミック部品	ターボチャージャーロータ
	セラミックダイス	押出、アブセット
	導電サイアロン	ダイス、ロータ
	窒化硼素ルツボ	真空蒸着用ルツボ
	セラミック刃物	ナイフ、ハサミ、カッター

所在地：〒100 東京都千代田区丸の内2-1-2
(文責：社長室主任部員 永沢 秀幸)